

## 新幹線地本申2号 第3回定期大会発言に基づく申し入れ 団体交渉報告④

2020年11月25日、表題について団体交渉を実施しました。主な議論は以下の通りです。

第4項 新幹線車内及び駅構内の警備員について、関係する社員に対し、警備員の業務内容及び異常発生時の取扱いフロー等を周知徹底すること。

回答：警備員との連携に必要な情報は、引き続き周知していく考えである。

(第4項議論の続き)

組合 JRと警備会社と合同で実車訓練をしたこと話した際に、警備員の中には訓練の内容は知っているものの、実際に動いてみたわけではないので、遭遇した際に訓練のように動けるだろうかと漏らしている方もいた。実際に52Bの事象で経験した内容を聞いていただきたい。

組合 実際に警備員が途中でどのように動いていたのか、当該不審者が刃物を持っていた情報を知らずにいた時間帯があった。もしそのことを周知していたらどう対処がかわったのか、そういった点がわからないままである。乗務員側から警備員へ何をお願いできるのか、そういったことが周知されていないのでこちらもどうしようか迷った。

会社 車内警乗警備員の仕事は、車内で何かあった際に対処するというのが基本にある。対処と言っても、周りにお客さまがいる場合だとか、不審者との間合いだとか、様々なシチュエーションがあるなかでの判断になると思う。乗務員と警備員が違った場所にいる場合ではお互いの状況が見えないのでなおのこと心配になることもある。そういう面からも、ボイスカムなら車掌以外の関係者も状況が把握できることから、実際の運用を積み上げていくことも必要なんだと感じている。

組合 会社は警備会社から報告書ももらっているのですが、警備員がどのように動いたのかを把握しているが、一方の当該車掌にはそういった情報共有はなされていない。これでどうやって振り返りをするのか。連携にも様々なパターンがある中で、事象を振り返りながら知見をえて、お互いの動きが見えてくるものかと思っている。私たちは、社員がその部分について不安を感じていることに対して、会社として手立てをしないのですか？ということをお聞きしている。現状抱えている不安の声にどう手立てをしてくれるのか。

会社 個別具体的な対応というのは、これまで出していなかった。今後、どうするかについてはまた別の議論になる。警備員には何か危険と覚えることがあったときに、乗務員を含めた車内の関係係員と連携をして対応するというのを会社としては指示している。一方、乗務員にはそういった際には情報共有にあたってくれと指導している。今以上に連携をとっていかねばならないと感じている。

組合 52Bの振り返りがどのように行われているかは知らないが、当該でボイスカムを使用しなかったのは視界に警備員が見えていたからである。

会社 車掌と警備員以外にも情報が伝わっていれば、運転士から指令への連絡、車内販売委員も駆けつけるなど、場面にもよるができる事柄の幅が広がるのではないかと考えている。ベストシナリオを求めているのではないが、普段からボイスカム等のツールを用途によって使い分ける感じで捉えていただければ。何か起きた時に前広に情報共有することができる。

組合 そういった方向性があるのであれば打ち出せばいいのではないかと。警備員は車内で警備以外の動作もしていて、車掌から見ればどこまでが本当の仕事なのかどうか分からない。指導するにしても、報告が届かなくて結果として現場の社員だけ鬱憤がたまっているような状況だ。

その⑤へ続く